

聖母小だより

令和2年2月1日

2月号

桜の聖母学院小学校

『鈴と、小鳥と、それから私』

副校長：武藤 浩之

木曜日の放送朝礼。先月は二週続けて教育重点目標に関わる話をしました。「自分と他の人を大切にすること」に関わる話です。1回目に取り上げたのは「恩送り」でした。「恩」のつく言葉として、すぐに思い浮かぶのは「恩返し」でしょうか。「恩知らず」「恩を売る」といった不届きな行ないを表す言葉もあります。「恩送り」の方はあまり耳にしません。実は江戸時代から使われていて、その考え方は、人間社会が古くから持っている良識の一つと言われています。それはさておき「恩送り」については、また別のときに述べることにします。

2回目の放送では詩を読みました。金子みすゞの『私と小鳥と鈴と』です。この詩には、自分と他の人を大切にすることにつながる言葉と心のあり方が書かれています。それはどんなことなのか、子ども達と共に考える機会をいつか持ちたい。以前からそう思っていました。

金子みすゞの詩は本校で使用している国語の教科書にも載っています。『私と小鳥と鈴と』は3年生の上巻です。授業で必ず扱うのは「みんなちがって、みんないい。」のところ。放送でも、その部分を取り上げました。それぞれに違いがあるからこそよいと思えること。あなたはあなたでよいと思えること。それは自分と他の人を大切にすること。まずはそんな話をしました。次に触れたのは題名です。この詩の題名は、最後に「と」がついています。『私と小鳥と鈴と』ではありません。『私と小鳥と鈴と』になっています。その「と」の後に続く言葉を考えてみよう。ということで放送での話を締め括りました。

余談ですが、もう一つ。題名では「私」が一番先ですが、「みんなちがって、みんないい。」の一行前は、「鈴」「小鳥」の後に「私」、つまり、最後が「私」になっています。それは、他者の存在があってこそ自分があるということでしょう。国語の教材から学ぶのは、子ども達だけではなく、ゆえに巻頭言の表題にしました。

『私と小鳥と鈴と』

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）をはやくは走れない。

私が体をゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな歌は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

* 第1回募金額 R1.12.11~12.12... 円
* 第2回募金額 R2.1.15~1.16... 円

	送付先	金額
①		円
②		円
③		円
④		円
⑤		円
⑥		円
⑦		円
⑧		円
⑨		円

今年度もご協力に感謝!!です

■1月15日と16日の二日間、第2回募金活動が行なわれました。この期間の金額は 円。昨年末の第1回と合わせた額は 円になりました

■先日、左の表の通り、募金の送付先が決まりました。活動の中心となっている奉仕委員会の報告と重複しますが、「聖母小だより」は外部に配付することがあり、また、学校側の記録にもなりますので、今年も掲載しました。保護者の皆様方の心温まるご協力に感謝の気持ちで一杯です。

第3回ベルマーク作業：ベルマーク委員会

《日時》 2月15日(土) 10:00~11:30

学校側担当 定方

《場所》 本校舎3階「図書室」「多目的室I」



《確認》
・前回までに当番になっていた方で欠席されていた場合は、今回の作業に必ず参加して下さい。
・インクカートリッジの仕分け作業も行ないます。

スクールバスの件：事務室

●2月26日(水)に6年生による「謝恩会」が行なわれます。これに伴い下校用バスの発車時刻を次のように変更いたします。

*14:30⇒14:00に変更

*通常より早く降車場所に着くことになります。

●来年度のスクールバス利用申込み書(1~5年)を配付しました。〆切日は2月7日(金)：厳守です。担任に提出して下さい。

第3回資源回収：環境委員会

《日時》 2月15日(土) 7:40~9:00

学校側担当：湯川

《場所》 本校舎「児童玄関前」



《回収物》
・古新聞、段ボール、雑誌、牛乳パック、アルミ缶、スチール缶(アルミとスチールの分別をして下さい。)
*回収の時間帯は登校(園)の時間帯と重なります。自家用車で搬入される場合は、くれぐれもご注意下さい。

授業料の引落とし：事務室

《引落とし日》

2月10日(月)です。

《確認》

2,3月分まとめての引落としになりますので、ご承知おき下さい。

『全力で取り組む ～児童会学級委員会主催：後期スポーツ大会～』

後期学級委員会委員長 5年1組：

1月14日(火)。いよいよ後期スポーツ大会の日が来た。この大会の目的は「ドッジボールを通して、4,5,6年生の親睦を深める」ことにある。その目的に沿った楽しいスポーツ大会にするために私は、まずは全力でドッジボールに取り組むことが大切だと思った。そのために、私自身が学級委員の仕事にもドッジボールにも全力で取り組んだ。

後期のスポーツ大会は、最後の一秒までどちらが勝つか分からない接戦が多く、とても盛り上がった。今回は、5年生がチームリーダーになったことで、プレーだけでなく、自分が試合に出ないときには、試合に入ったかのように、当てたときには一緒に喜んだり、当てられたときには一緒に悔しがったりして、全力で応援することができた。

優勝したのは「チームHappy」だった。運営側として工夫したのは、MVPを各学年一人ずつにすることによって、これまで以上に全力で取り組めるようにしたことだ。来年も楽しく、また一人ひとりが全力で取り組めるスポーツ大会にしたい。

